

メイン動線をデザインした外観



大阪電気通信大学は少子化時代を見据え、魅力あるキャンパスとして生まれ変わるために半分以上の校舎を解体し、研究室・実験室・事務局

などで構成する約2万平方メートルのOECUイノベーションスクエアを新築した。

プロジェクトの目的は「キャンパスを活気あふれる元気な場にする」とであった。従来型の閉じた研究室や実験室ではなく、壁のないオープンなスペースとすることで活動を可視化し、出会いや発見を誘発して「学びを開くこと」をコンセプトとした。建築は開かれた二つのボリュームが向かい合っているように、エネルギーが外部にあふれ出すデザイン

キャンパスの学びを開く

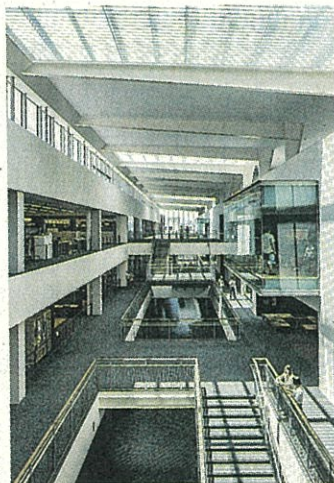
concept View

大阪電気通信大学OECUイノベーションスクエア

を目指した。

具体的には、キャンパスの中央に位置することを生かしてハブとなるメイン通路を創り、建築内に取り込んで3層吹き抜けのアトリウムとした。そこに研究室・実験室を開くことで、パリのパサージュのようなにぎやかな界限（かいわい）性を生み出せると考え、その構成を建築の基本的な骨格とした。

約100坪のパサージュに面して多様なラウンジや電気通信を象徴する単位名を冠し



学びが開かれたパサージュ

たプロジェクトルームを配置し学生の居場所を確保。東西エントランスにはガラスボックスのホールや大学の特徴であるものづくり工房を設けて外部に開き、キャンパスを活気あふれる元気な場としている。

パサージュは環境シミュレーションを駆使して快適に最適化した直射日光を取り込み、内部でありながら外部に似ているような開放的な環境を実現した。天井は連続する片持ち梁とトップライトの組み合わせとし、長いパサージュを通り抜ける行為にリズムと躍動感を与えている。

大きな8坪の跳ね出し階段

【建物名】大阪電気通信大学OECUイノベーションスクエア

【所在地】大阪府寝屋川市初町18の8

【建築主】大阪電気通信大学

【設計・施工】竹中工務店

【構造・規模】OECUイノベーションスクエア（S造3階建て延べ1万8240㎡）、体育館（W造平屋1260㎡）、正門守衛棟（RC造平屋64㎡）、北門守衛棟（RC造平屋30㎡）

【工期】2019年6月～22年3月（外構工事は23年8月竣工予定）

（撮影＝堀内広治）

や旧校舎の松杭を再利用した家具など、この場にしかない「しつらえ」や「ディテール」が学生に大阪電気通信大学ならではの記憶を提供している。新たなキャンパスで、多くの学生や教職員が垣根を越えて出会い、多くのイノベーションが生まれることを期待している。

竹中工務店

東京本店設計部設計

第3部門設計2G

（当時大阪本店設計

部設計第4部門設計

3G）

グループ長 宮本聡子